



EBISU_{san}

大田区立松仙小学校
令和3年10月5日(火)
裏研究推進だより 第11号
担当 研究主任

6年生話題提供授業 協議会記録

記録・文責：研究推進委員

成果

◎児童の様子

- ・友達のアドバイスでタイムがよくなった児童がいた。
- ・トリオで見合い、教師が提示したポイントをもとに教えあっている姿があった。
- ・自分の課題に合った場を選んで運動している児童の姿があった。

◎教師の支援

- ・おふるマットのハードル、ポイントの掲示（コーンにかけて児童がすぐに見られるようになっていた）など教具の準備がとてもよく工夫されていた。
- ・準備運動・整理運動の際、音楽があつてよかった。

課題&疑問

◎課題解決に向けて

- ・トリオで見合うとき、横から見るのではなく、課題に合わせて見る場所を変えてもよかった。
- ・課題選択がその児童にとって適切だったか。自分の課題を正しく把握させる必要があった。
- ・チャレンジタイムでの課題解決の意識が弱かったのではないか。
- ・手本となる動きを示せたら明確なゴールイメージが共有できたのではないか。
(先生の手本、上手な児童を取り上げて全体で確認する、大きな声でほめるなど)

◎質問

- ・それぞれのポイントを解決するための練習の場の工夫は？
→上体を傾ける…のれんくぐり
遠くから踏み切る…マットをしいて踏み切る、お手玉を置く など
☆第一ハードルまでの速さが重要なので、全力で走らせるとよい
- ・すでに跳んでいる児童への今後の手立ては？
→実態にもよるが、高さやインターバルをもう少し上げてよい（高学年7m）。

☆「勉強になった！」ポイント☆

<運動量の確保と指導時間のバランス>

上手になってほしい、できるようになってほしい！と熱が入ると、ついついたくさんのポイントを話してしまったり、手本を見せてあげたくなるものです。的確で短く、技や動きのポイントを伝え課題解決のきっかけを作るような指導…難しいです。今回の授業では、教師主導ではなく児童たちにゆだね自分たちで課題を見つけていこうとする姿があり、勉強になりました。何度も試技を繰り返してたくさん運動しながらも、伏江先生の示したアドバイスやポイントに照らし合わせて見合う姿もありました。授業を作るうえでしっかりと運動の特性を理解し、児童の様子を見取っていくことが大事だなと思いました。

☆運動への偏見を払拭するのが、体育の授業

「運動って疲れる」「うまくできないとつまらない」というような運動に対する偏見を払拭する授業を目指しましょう。「自分のアドバイスで友達が跳べるようになったのはうれしい」など、新しい価値や意味に気付かせ、運動大好き、運動は大切だと思う児童の育成を。

☆二極化は、授業で改善できる

苦手な子、意欲的ではない子への指導を重点的に行いましょう。授業時間の半分をその子たちに使って、かかわってあげる時間をかけるとよい。ハードルを好きになるのは一部の子だが、楽しくできたら嫌いになる子は多くなりません。楽しく行い、3つのねらい（技能・思考判断表現・主体的に取り組む態度）に迫る授業を。もうやりたくないと思わせたら大失敗！

キラリと光る付箋

- ・トリオの見合いについて、1回で「アドバイス」したと自己評価は高いがその妥当性は？
（赤16 緑13 黄6）
- ・友達への声かけはどんなことをするのか。
Aくん「どう？」
Aさん「うーん…」
- ・「もっと前傾した方がいい」というアドバイスをしていた子がいたが自分の姿の変容は分かりにくい。クロムでの撮影はどうか。（大武）
- ・お互いに声をかけて、協働して授業を作り上げていた。日頃の学級経営が素晴らしい。
「タイム測る？」
「旗やってくれー」等
- ・見る位置は①～⑤の全てが横でいいのか。Kさん、ずっとスタートの横にいる。
- ・痛くないハードルはよかった。Sさん、Aさんなど全力に近い速さで走っていた。Aさんの身長と速さを考えると、インターバルはもっと広い方がよさそう。

夕会でもお知らせしたように、「主体」、「対話」、「深い学び」の視点で授業を見ていただくことに合わせて、目の前の児童の言動や友達との関わりについても記録をとっていただき、具体的な児童の名前やゼッケン番号などを挙げながら話ができるようにお願いします。

教具の工夫、場の工夫、環境の工夫など、さまざまな工夫によって子供たちの課題解決に向けた学習の仕方の提案でした。アンケートの実施もありがとうございます。単元の学習がお終わった後、子供たちの意識にどのような変化があったかもしっかりと検証したいですね。（研究主任）